

## 韓国留学から得たもの

21014069 2年 国際学部 玉木風美子

私は、平成 27 年度の韓国派遣留学に参加しました。様々な国から来た学生と一緒に韓国語を勉強できたことは、語学の上達に多いに役立ちました。また、私は海外に行くのはこの留学が初めてだったので、毎日の日常すべてが新鮮でした。そこで、留学生活の中で印象的だったことや心を動かされたことについてまとめます。

日本と韓国のマナーやサービスのギャップには最初驚きました。例えば、韓国の道にはごみがあったり、コンビニのアルバイトはレジしていない間に携帯電話を使っていたりしていました。また、韓国の交通機関は私にとって少し怖かったです。バスは停留所でしっかり止まらないことがあるし、カーブも急です。電車の中で電話での通話が当たり前のようにされています。慣れてしまえば問題はありませんでした。日本は恵まれているのだということに気づきました。世界において常識や前提は取り除くことは不可欠だと学びました。

嬉しかったことは、日本のことが好きな外国人が多かったことです。私が出会った人々は皆食べ物や漫画などの日本文化が大好きでした。私が日本人とわかると、不器用ながらも日本語を話してくれる人もいました。特に、日韓は歴史問題が複雑ですが、留学中の普通の生活ではそのことは全然気にならず、ニュースでの印象と実際の生活や文化は違う、と身をもって実感しました。ある靴屋の店員は、世界的に全く有名でない新潟のことも知っていて、私は嬉しくて驚きました。

それに対して私は、クラスの友達や先生から日本や新潟の文化について聞かれたとき、どうして有名なの？どんな違いがあるの？など詳しい説明を求められると答えに詰まってしまう場面がありました。より濃い内容で会話できなかったことに後悔しています。語彙がなかったことも原因ですが、新潟の魅力について理解していないことが一番の問題だったと思います。異国理解のためには自国についてもきちんと知っておくべきだと感じました。

そしてやはり、世界の同世代の人と出会えたことが留学の一番の利益であり、楽しかったことでした。見た目はもちろんですが、家庭や天候などの生活環境も個人の考えも日本の中だけとは比べられないほどに異なります。それぞれの悩みや目標を分かち合うと自分が小さく思えました。しかし、好きな音楽が同じで嬉しくなったり、くだらない話をして笑ったりして、つながりを感じることもありました。

留学の日常の中に、考えさせられることがたくさんありました。このように、暮らすことによって世界の共通点や差異に気づき、その国の長所短所に一喜一憂することは留学ならではの経験でした。私はこれをきっかけに、国内や海外のさまざまな場所に訪れたいという目標ができました。留学で学んだこと、感じた事をこれからの生活に反映していきたいです。